

素晴らしきミツバチの世界

養蜂とは。ミツバチの素晴らしきとは。永年蜂を愛し続けてきた
久世佳弘氏が語る、素晴らしきミツバチの世界!!

夏のミツバチ

春から夏にかけてたくさんの花が咲くこの季節は、ミツバチたちが1年間でもっとも活発になります。

越冬期には3〜5ヶ月生きたミツバチも、この季節は1ヶ月ほどの寿命となります。それほどハードに働いているということですね。

夏は、ひとつの巣の中にいるミツバチの数も最も多くなり、1万5千匹から3万匹以上になります。また、分蜂といって群の大きくなってきたミツバチたちが自然に巣を離れ、新しく巣を作り始める時期でもあります。女王が半数の働きバチや雄バチを引き連れて今までの巣を出て行くのですが、何千匹にも及ぶ大移動は迫力があります。人工的に分蜂させる場合もあります。その時は王台という女王蜂が育つ部屋が残っている巣板と蜜の入っている巣板数枚を残し、残りのミツバチ全てを移動させることで可能となります。

クーラー付きの巣?

夏を暑いと感じるのは人間もミツバチも同じで、働きバチの中から送風係が登場してくるのもこの時期です。これは羽化したばかりの若いミツバチが担当する場合がありますが、巣門の内外に並んで口に含んでいる水を撒き、羽ばたきをして巣内に風を送り込みます。そうすることで中の温度は一定に保たれ、常に快適な環境の中で生活が出来るようになっていくというわけです。

また夏の終わりごろにはスズメバチが襲ってくる機会も増えてくるので注意が必要です。ニホンミツバチはこの襲撃に対して集団でスズメバチのからだを囲い込み、自らの体温で蒸し殺してしまいます。チームワークの良さもさすがミツバチという感じですね。



株式会社札幌山本養蜂園社長

久世佳弘

久世佳弘 プロフィール
昭和14年 北海道常呂町生まれ。
昭和47年 山本養蜂園札幌営業所勤務
平成6年 札幌山本養蜂園として独立
札幌山本養蜂園
TEL 011-873-3388
住所 札幌市白石区北郷2条7丁目6の13
事業内容 ハチミツ関連商品・養蜂器具卸販売

